

経王殿御返事

文永十年八月十五日。聖壽五十二歳作。

「つるぎ 劔）なんどもすすまざる 不
進）人のためには用る事なし。法華経の
劔は信心のけなげ 勇）なる人こそ用る
事なれ。鬼にかなぼう 鉄棒）たるべし。
日蓮が魂を墨に染め流して書いて候ぞ、
信じさせ給へ。」

師子王は、蟻の子を捕る時も、猛獣
を襲うときも同じ勢いです。日蓮があな
たを守護せんとして、このご本尊を認め
る時も、獅子奮迅の力で臨んでいるので
す。

また、南無妙法蓮華経は師子吼のよう
なもの、いかなる病も障ることは出来ま
せん。

臆病者に劔は不要なように、法華経の
信仰も、貴女のような勇猛精進の心構え
が必要です。

佛の御心は法華経にあり、日蓮が魂は
南無妙法蓮華経そのものです。

斯くの如きご本尊、よくよく御信心あ
れ。」

と、信心けなげな経王さんに、お認め

になりました。

仏滅後二千余年間未曾有、日蓮大聖人始頭の大曼荼羅ご本尊は、末代の法華信者に対するご遺言でもあります。

その内容とするところは、法華経の明鏡に浮かべて、少しも曇り無き、日本国の有るべき姿でありました。世界平和の設計図なのです。

今、日本国は米中等覇権国に埋没し、そう、元気が有りません。

折角、宝の在処の図面を、遺言しておいて頂きながら、手を拱いて読み解こうともせず、或いは、知っていながら行動に起こさないことは、祖師の一番嫌われる姿勢であります。

日蓮大聖人のお題目に連なる人は多けれど、果たして聖意の如くになっているのか、往年を顧みて来る年への反省にしたいものです。

但し、なぜ勇猛心が要るのか、それは大怨敵に取り囲まれるからです。

三浦恵伸